

平成17年度

15th

# 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

## 入選作品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会  
(栗原市、登米市、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)  
後援 宮城県、若柳観光協会、築館観光協会、迫町観光協会、  
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、  
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台支局、  
毎日新聞仙台支局、岩手日報社  
協賛 富士フィルムイメージング(株)、宮城県写真商業組合

# 入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
<b>最優秀賞</b> (宮城県知事賞)	フィナーレ	菊地 誠一	宮城県石巻市
<b>優秀賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	燃える朝	篠原 善彦	宮城県登米市
<b>金賞</b> (栗原市長賞)	残月落雁	天野 宗謙	宮城県仙台市
<b>金賞</b> (登米市長賞)	乱舞	千葉 忠雄	宮城県栗原市
<b>銀賞</b> (若柳観光協会会長賞)	雪紋 (せつもん)	伊藤 浩	宮城県古川市
<b>銀賞</b> (築館観光協会会長賞)	サギの親子	阿部 教子	岩手県一関市
<b>銀賞</b> (迫町観光協会会長賞)	くれっ!	鈴木 慶彦	宮城県栗原市
<b>銀賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼サクチュアリー友の会会長賞)	夕景のコロニー	伊藤 孝喜	宮城県登米市
<b>銅賞</b> (河北新報社賞)	爛漫	千葉 稔	宮城県登米市
<b>銅賞</b> (読売新聞社賞)	朝光	菅原 善弘	宮城県南三陸町
<b>銅賞</b> (朝日新聞社賞)	ハス満開の伊豆沼	日下 武志	宮城県仙台市
<b>銅賞</b> (毎日新聞社賞)	氷 (豹) 紋	工藤 邦彦	宮城県加美町
<b>銅賞</b> (岩手日報社賞)	乱舞	菅原 和博	宮城県栗原市
<b>入選</b>	冬沼のヨシ	小野寺 亨	宮城県栗原市
<b>入選</b>	冬晴れの日	鎌田 和則	宮城県仙台市
<b>入選</b>	夜明けの沼景	伊藤 利喜雄	岩手県一関市
<b>入選</b>	朝日に羽ばたく	星野 貴美子	宮城県仙台市
<b>入選</b>	秋空に舞う	岩渕 良弘	宮城県登米市
<b>入選</b>	岬へ飛び立ち	鎌田 典子	宮城県仙台市
<b>入選</b>	つどい	秋葉 健一	宮城県仙台市

## 総 評

伊豆沼・内沼写真コンテストは、今年で15回目となりました。長く続けるということは、とても大切なことだと思います。特に自然保護を目的としたものは、自然の長いサイクルに合わせた、長期の視点でモノを捉えていく姿勢が求められます。このコンテストも15回もやっていて、やっと自然保護のためだということが、自信を持って言えるようになったと思います。毎年、毎年、変わらないようで自然は着実に変化をしています。そんな変化が見えるのは、写真を撮って比較できるお蔭だと思いません。これからも永遠に、写真コンテストが続けられて、残されていく作品群は、まさに貴重な自然資料、自然遺産になっていくと思います。

### フォトコンテスト審査員 竹内 敏 信



1943年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒。愛知県庁勤務の後、フリーとなる。主として35ミリ一眼レフカメラを駆使し、鋭利な感覚と的確なテクニックで自然の映像化に挑戦し続ける。風景写真の第一人者として最も人気が高く、多くの写真のコンテストの審査員を務める。写真展、講演会など多数。主な写真集に「花祭」（誠文堂新光社）、「天地」「天地聲聞」「櫻」（出版芸術社）、「天地風韻」（日本芸術出版社）、「雪月花」（トーキョーセブン）（社）日本写真家協会会員  
日本写真芸術専門学校副校長  
東京工芸大学  
現代写真研究所講師



【評】強い朝の光が湖面に当たって、湖面から放射状に光が飛び散っています。こんな光景もあるのか、と目を見張る美しい風景です。沼が放つ見事な光のショーを、写真故に的確に捉えて、実にフォトジェニックな味わいの作品として完成しました。



【評】東の空を真っ赤に染めて、ギラギラした朝日が昇ってきます。その太陽を画面の中心に据えて、天空の輝きを美しい色彩で捉えた手腕は見事です。二羽の野鳥のシルエットがとても印象的なダイナミックな作品です。



【評】 薄明かりの空に、細い三日月が輝いています。この月の姿が、たまらなく印象的です。その月を背景にして、数羽の雁が飛んでいきます。もの淋しい、しかし情感に満ちた空間です。なかなか哲学的で、意味を感じさせて見事です。



【評】 天空を埋めつくしたような、無数の雁が飛翔している一瞬を、ダイナミックに捉えた作品です。鳥の鳴き声と、羽ばたくざわめきとが聞こえてくるような、リアリティが溢れています。



銀賞（若柳観光協会賞）

「雪 紋」

伊藤 浩

【評】 湖面に氷が張って、その上に舞い降りた雪の模様が、とても美しく捉えられています。そして、氷上にいる雁たちの姿がこの情景と見事に一致していて、美しい絵画を見るような情景です。

銀賞（築館観光協会賞）

「サギの親子」

阿部 教子

【評】 緑一色の夏の風景です。ハスの緑と花の色合いとが、美しいハス田の風景をかもし出しています。飛翔する二羽の白いサギは、親子であるということですが、親子で満喫する夏の沼風景。



銀賞（迫町観光協会会長賞）

「くれっ！」

鈴木 慶彦

【評】 嘴を大きく開けて、餌を「くれっ」と言っているような白鳥の姿が、とてもユーモラスです。このような、一人称的な視点の鳥の風景もなかなか面白く、気持ちが伝わってくるようです。

銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）

「夕景のコロニー」

伊藤 孝喜

【評】 夕景の薄闇の風景が、白鷺の白い色合いと見事に美しいコントラストを見せています。暗い中で、サギの白い姿がより明確に浮かび上がりました。夕方、コントラストが上がって、とても見やすくなった写真です。



銅賞（河北新報社賞）  
「爛漫」 千葉 稔



【評】春の日の快晴の一日。桜は満開で、とても清々しい風景が生まれました。桜を青空に浮かして、とてもスッキリとした美しい作品となっています。

銅賞（毎日新聞社賞）  
「氷(豹)紋」 工藤 邦彦



【評】湖面に張った氷の所々が、丸く黒くなってまさに豹紋状態です。その斑点模様と、広角レンズを使った、広がりのある風景の捉え方が見事です。

【評】田んぼの上を飛び交っている無数の雁の羽ばたき。その飛び方がとても力強く捉えられています。手前のハクチョウが、画面に変化を付けています。

銅賞（読売新聞社賞）  
「朝光」 菅原 善弘



【評】朝の紅く染まった風景の中に、無数の鳥が息づいています。大空を飛翔している鳥の群れと、湖面で羽ばたく鳥の姿とが、美しく対照的に捉えられていて面白い作品です。

銅賞（朝日新聞社賞）  
「ハス満開の伊豆沼」 日下 武志



【評】夏の真っ盛り、湖面一面に咲いているハスの花と、緑のハスの葉とが美しく調和している風景です。その中にある三羽の白いサギの姿が、とても印象的です。

銅賞（岩手日報社賞）  
「乱舞」 菅原 和博



入選「冬沼のヨシ」 小野寺 亨



【評】 冬の日の朝、凍てついた風景です。太陽の姿と、水中のヨシの風景とを対象的に捉えています。冷たい情感が漂っています。

入選「冬晴れの日」 鎌田 和則



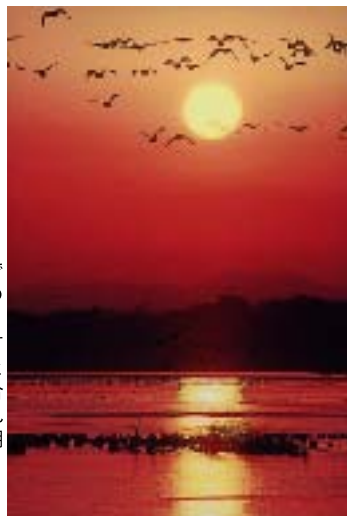
【評】 良く晴れた冬の日、長閑な沼の姿が捉えられています。3艘の小舟と、背景に浮かんでいる雲とが、美しいコントラストを見せています。

入選「夜明けの沼景」 伊藤利喜雄



【評】 夜明けの逆光のライティングの中に、浮かび上がる朽ちかけたハスの葉と茎。漁をする小舟の人物など、朝もやの風景が美しく捉えられています。

入選「朝日に羽ばたく」 星野貴美子



【評】 立ての構図で昇ってきつつある朝日と、上空を飛翔する野鳥の姿とが美しい色合いで捉えられています。湖面の輝きも、美しさを放っています。

入選「秋空に舞う」 岩淵 良弘



【評】 冬の水田を、埋め尽くすように群がるガンの群れが、ダイナミックに捉えられています。晴天の気持ち良さ、羽ばたく鳥の羽音が画面から響いてきます。

入選「つどい」 秋葉 健一



【評】 白い大きなハクチョウを中心にして、無数のカモたちが取り巻いています。そして、あたかも鳥たちが集って、集会を開いているような雰囲気面白いのです。

入選「埕へ飛び立ち」 鎌田 典子



【評】 横長のパノラマスタイルの画面に、美しさが感じられます。水面から、群れをなして飛び立ちようとしている、無数の鳥たちのざわめきが聞こえてきます。